

# 令和4年度事業報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

## 1 事業の成果

2022年度はコロナ禍3年目となりましたが、私たちの日常を取り戻しつつある1年でした。

20周年を振り返るリーフレットを作成し、大倉山店は地域の皆さまと祝うことができました。

過去2年間はコロナ禍でもあり支援金は例年より減りましたが、2022度はコロナ前と同じように支援金を生み出すことができました。

支援について考えていることを自由に話す場をもち、改めてチャリティショップとして活動していく意義を再確認することができました。新たな支援先も増え、支援先とのつながり方を考える機会となりました。

## 2 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

### I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

#### 1) ショップ事業

##### (1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 280日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町60-1
- ・従事者人員 ショップマネージャー 3人(7月まで)、2人(8月から)  
ボランティアスタッフと運営委員 27人(延べ914人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 2,291件
- ・事業高 7,339,214円
- ・支出額 7,112,281円

##### (2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 282日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町2-1 2-7
- ・従事者人員 ショップマネージャー2人、ボランティアスタッフと運営委員 35人(延べ1,257人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 2,231件
- ・事業高 7,250,443円
- ・支出額 6,772,120円

## 2) 環境活動

「寄付品のお願い」リーフの内容に使い捨てプラスチック製品は受け取れない旨明記した新版を作成し、12月より配布を始めました。お買物にエコバッグを利用される方も多くまた包装をしないままのお渡しも増えました。羽毛の再生循環リサイクルを目指すグリーンダウンプロジェクトの主旨に賛同し羽毛製品の回収を進めました。販売に適さない場合はダウンコートなどの衣類も回収に加えました。販売に適さない、また販売できなかった衣類の一部を引き続きリメイク活動で生かしました。資源の有効利用はガラス・陶器のリサイクルを毎月回収に出して廃棄せずに役立てられました。

	大倉山店(前年比)	日吉店(前年比)	備考
ファイバー(衣類・バッグ)リサイクル	453 袋 (111.9%)	178 袋( 96.7%)	販売できなかった衣類は衣類・反毛・糸に生かされました
ガラス・陶器のリサイクル	ガラス7箱・陶器14箱 (110.5%)	ガラス9箱・陶器11箱 (111.1%)	毎月1回の回収で再生ガラスや道路基材に再利用されました
羽毛布団のリサイクル	羽毛布団(ダウンコート含む) 8袋	羽毛布団(ダウンコート含む) 7袋	1袋には羽毛布団2枚程度入れています
可燃物・不燃物の廃棄費用	67,760 円(82.8%)	47,091 円(96.3%)	寄付者の意識の向上が廃棄物の減少につながりました

## 3) リメイク活動

ボランティアで構成される3つのリメイクチームと連携して、販売できなかった寄付品等を利用したリメイク活動を行いました。リメイク教室を再開しました。12月の「菊名ご近所文化祭」と2月のWE21ジャパン主催の「着物・リメイクフェア」に参加しリメイク品販売とWE21ジャパンこうほくの活動アピールができました。

## II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）

収益からの支援額については、支援先団体からの切実な情報を受け、運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。紛争や災害で困難な状況にある人たちへの緊急支援の検討もしました。

2022年度総支出額 1,888,783 円

### 1) 海外支援 合計 1,200,420 円

#### (1) 有機農業の発展を通じたゆたかで幸福なコミュニティの構築

- ・実施団体 緑の芽有機農園学校
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々  
カンボジアコンポントム州・タケオ州・カンポット州・コンポンチュナン州・プレイベン州の有機農家
- ・支援額 2022年度の収益金による2023年度事業への支援額 300,000円
- ・プロジェクトの概要

有機農家・小売業者・消費者を繋ぎ、小規模農家の生活を向上させるプロジェクト。342農家が参加し、農産物はプノンペンの8店舗で販売しました。若者の農園研修や、リーダー農家の能力強化ワークショップなどを実施の他、プロジェクトチームはフィールド訪問を12回行いました。

2022年度も現地視察は実施できませんでした。

#### (2) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

- ・実施団体 NPO 法人 JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々  
イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民・イラク国内避難民、福島の子どもたち
- ・支援額 442,079円(チョコ募金330,000円、収益金等からの支援100,000円、店頭募金12,079円)
- ・プロジェクトの概要

イラクの4つの病院への医薬品、医療器材の支援や人材育成による小児がんの子どもたちへの医療支援、JIM-NETハウス（小児がん総合支援施設）の運営による病児学習支援、貧困世帯への経済支援、病

児の親御さんへの支援相談、子どもたちへのイベント実施など、またイラクに逃れてきたシリア難民妊産婦・子ども支援、イラク難民キャンプでの支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動への支援を行いました。

JIM-NET ハウスはイラク北部アルビルのナナカリ病院内にあり、ジムネット現地スタッフやボランティアの先生により、病児のための様々な活動が行われています。病気の回復とともに学力の指導をして復学支援に役立てています。

(3) ミャンマー地雷犠牲者への義足支援

- ・実施団体 NPO 法人地雷廃絶日本キャンペーン (Japan Campaign to Ban Landmines)
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々  
ミャンマー、カヤ州での地雷犠牲者
- ・支援額 100,000 円
- ・プロジェクトの概要

JCBLは2017年より現地パートナーのKNHWO(Karenni National Health Worker Organization)を通じてこれまでに200名の地雷犠牲者に義足を提供してきました。しかし政情不安の中、KNHWOの工房が閉鎖を余儀なくされました。地雷犠牲者や傷病者の支援を実行する新たな方法を検討中です。

(4) コーヒーの森づくり事業継続に向けての支援

- ・実施団体 フィリピンNGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(CGN)
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々  
フィリピンコーディリエラ地方ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村コロス集落、タビヨ集落
- ・支援額 収益金による2022年度事業への支援額 150,000 円
- ・プロジェクトの概要

台風被害が残り、森林が失われている地域に現金収入となる作物(コーヒー等)を混栽し、環境に配慮した森づくりを行うことで、持続可能な森林再生・災害防止・生活向上を図ります。新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きく、現地NGO存続と助成金申請作業のためスタッフ給与3ヶ月分の支援をしました。

(5) ウクライナ難民支援

- ・実施団体 特定非営利法人難民を助ける会 (Association for Aid and Relief, Japan)
- ・支援額 105,754 円 (指定募金)

ウクライナにネットワークを持つポーランドの修道会と協働し、食料や医薬品等の支援物資をウクライナ西部に輸送し避難民支援をしています。

(6) トルコ・シリア地震緊急支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人パルシック
- ・支援額 102,587 円 (2022年度収益金からの支援額50,000円、店頭募金52,587円)

シリア難民支援をしている日本のNGO。シリアの難民とトルコ在住のシリア難民に医療品等の支援をしています。

2) 国内支援 合計 688,363 円

(1) 寿町等生活困窮者自立支援

- ・実施団体 寿炊き出しの会
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町と市内近隣居住者・路上生活者、並びに川崎市桜本近郊の路上生活者(新型コロナウイルス感染拡大により職住等の行き場を失った人々を含む)
- ・支援額 58,083 円 (収益金50,000円、店頭募金8,083円)
- ・プロジェクトの概要

横浜市中区寿町地域並びに近隣の生活困窮者の人々(障がい者、高齢者、生活保護費受給者、路上生活者等を対象に「寿地区センター」「寿炊き出しの会」等地域の支援団体が連携し合って炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。特別給付金受領や生活保護申請手続きへのサポートも行われました。こうほくからは支援金のほか、寿町地区・桜本地区に衣類やマスク等の寄附を行い、路上生活者を訪問し諸支援団体や地域の人との交流を通して地域の課題の理解に努めました。

## (2) 関内周辺路上生活者支援

- ・実施団体 関内周辺夜回りの会
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 横浜市中区関内周辺の路上生活者
- ・支援額 150,000 円 (2022 年度の活動費として 50,000 円、2023 年度活動費として 100,000 円)
- ・プロジェクトの概要

当該地域内の路上生活者へ医薬品と野菜や卵を届ける活動。月 2-3 回の頻度で見回りを続けています。こうほくからも 11 月から 1 月にかけて 3 回にわたり計 5 名が活動に参加しました。

## (3) 放射能測定と医療活動支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援額 237,663 円 (収益より 226,735 円、店頭募金 10,928 円)
- ・プロジェクトの概要

たらちねでは、①放射能測定②たらちねクリニック③出張甲状腺検診プロジェクト④こころのケア⑤歴史探求プロジェクト⑥保養プロジェクト を継続しており、毎年詳しい報告書を出しています。

2022 年夏には新しく「低バックグラウンド液体シンチレーションシステム LSC-LB8」を導入し試験運転中です。2023 年 4 月頃からは、これにより現在より一桁低いトリチウムの値を測定していく予定です。

## (4) 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持つことが困難な家庭の子ども達
- ・支援額：店頭募金 22,617 円 (8 月 26 日～11 月末日)
- ・プロジェクトの概要

てんぼは、居場所のない 10 代後半の子どもの電話相談事業、シェルター事業、自立援助ホーム事業 (みずきの家) の 3 事業を運営し、緊急避難先や共同生活の場を確保し、子ども自身の選択による自立を支援しています。2020 年度より法人会員となりましたが、2022 年度も法人会員の立場を継続しました。

## (5) 核兵器廃絶を進める活動支援

- ・実施団体 実施団体：KNOW NUKES TOKYO (ノーニュークストウキョウ KNT と略)
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 日本、政策決定者、市民 1 人 1 人
- ・支援額 210,000 円 (5 月：締約国会議派遣費用として 11 万円、3 月：次年度活動費として 10 万円)
- ・プロジェクトの概要

核兵器廃絶のためにできることを様々に訴える活動をしています。6 月にメンバー 5 人が核兵器禁止条約締約国会議の開催地ウィーンへ赴き、非人道会議でスピーチを行い、被曝証言会を開催しました。この後、ウィーン会議報告のため全国を回り、7 月は NPT 再検討会議のためニューヨーク訪問。11 月には日本国内での議論活性化をめざして「議員ウォッチ 47」をスタートさせました。

## 3) フェアトレード品の販売による支援

生姜パウダー、コーヒー、の 2 品目を取扱い、生産者グループの生計向上に寄与しました。

年間仕入額 計 218,241 円

- ・森育ちのしょうがパウダー

生産者：フィリピン・ベンゲット州住民組織ウバパス・ダイヨコン・ランパダ

仕入額 87,372 円 (昨年比 150%)

- ・シサムコーヒー 生産者：フィリピン・CGN (コーディリエラ・グリーン・ネットワーク)

仕入額 130,869 円 (昨年比 128%)

## 4) キャンペーン

### (1) 貧困なくそうキャンペーン 期間：10 月 11 日～10 月 30 日

2 つのフェアトレード品 (シサムコーヒー、森育ちのしょうがパウダー) のサンプルを配布し、生産地の様子を伝えました。また、店内にポスターを掲示し、来店者に「フェアトレード」とフェアトレード品を扱うチャリティショップであることを広く発信しました。

(2) チョコ募金キャンペーン 期間：12月9日～2月10日

JIM-NETのイラク小児がん支援に賛同して、地域の皆さまに協力いただき、チョコ募金で病院や病気の子どもたちに医薬品を届ける活動に参加しました。イラクやシリアの子どもたちへの医療支援の他、がんの子どもたちと家族のための総合支援施設「JIM-NETハウス」の運営、院内学級の実施、イラク・シリアの難民キャンプに暮らす人々への医療支援、福島の子供たちを放射能から守る保養や検診の助成(福島基金)などにも使われました。

(3) 「3.11を忘れない」キャンペーン 期間：3月中

東日本大震災・福島第一原発事故から12年経ち、身近でなくなっている「3.11の課題」について私たちが当事者の一人として向き合っていく重要性を考えました。処理汚染水の海洋放出、原発再稼働、故郷に帰れない避難民、放射能汚染と隣り合う生活があることを掲示し知らせました。

ショップで復興支援品を販売し、「いわき放射能市民測定室たらちね」の活動を紹介して10日11日の売上げをたらちねに寄付し支援への理解を深める機会としました。「3.10 東日本大震災かながわ追悼のタベ」への支援を再開し、10日までの期間に3/10集会のチラシを配布して知らせました。

5) 支援事業地訪問

新型コロナウイルスの影響で海外支援事業地訪問はできませんでした。国内ではコロナ感染状況が緩和している時期に担当者が7回寿町のバザー等に参加。「関内夜回りの会」活動に11月～2月に運営委員会メンバー計5名が、また2名が地域の路上生活者を訪問し情報共有しました。

6) 学習会・報告会の開催

	主催・タイトル	参加者
5/27	第18回通常総会・報告会「路上の人々」 水地英子さんこうほく主催	21名
6/25	AAR 報告会ウクライナ緊急支援報告会 ZOOM 参加	3名
7/4	「核兵器禁止条約締約国会議」KNT 報告会 こうほく主催 KNT 高橋悠太さん、徳田悠希さん	17名
9/6	WE21 ジャパン 24周年アニバーサリーイベント、しょうがパウダーZOOM 参加	2名
11/6	JIM-NET チョコ募金キックオフイベント現地帰国報告会 ZOOM 参加	2名
1/9	WE21 ジャパン「核兵器のない世界」ZOOM 講座参加 基調講演(特非)ピースデポ代表湯浅一郎さん、ゲストスピーカーKNT 共同代表高橋悠太さん	3名
1/27	カンボジア S 3 現地視察報告会 昭和女子大准教授米倉雪子さんこうほく主催	16名
2/18	たらちね ZOOM 報告会「未来へ向かって」 WE21 ジャパン青葉主催・WE21 こうほく・かながわ共催	10名
3/1	JCBL オンラインセミナー[軍政下のミャンマーで傷ついた人々を支える] JCBL 代表理事 清水俊弘さんの現地報告「ミャンマー/タイ国境で今何が起きているか」他	4名
3/19	JIM-NET イラク戦争から20年写真と絵画で迎える過去現在そして YouTube 視聴	4名

### III. 組織活動

1) 組織運営

(1) 会員 期首61名 期末61名(入会4名、退会4名) 目標70人

(2) 参加型の運営を一層進めました。8月より大倉店マネージャーが1名減りましたが、ボランティアの力が大きく発揮されました。他店見学の機会をもうけ、ボランティア研修を行いました。

WE21 ジャパンこうほく20周年記念事業では、ボランティアと運営委員が協力して、オリジナルデザインのエプロンや缶バッジ、記念リーフレットを作成し、来店客にお披露目すると同時に、支援団体への関心や共感を広げました。

(3) 事務局体制

事務局長1名(7月までマネージャー兼任)、大倉山店2名(8月より)、日吉店マネージャー2名

事務局会議を2回(9月・1月)開催し、ショップ事業の円滑な運営に努めました。

#### (4) その他

- ・ワーカーズコレクティブ協会からの依頼により、就労準備実習生を日吉店で受け入れて週1回サポートしました。(12月～3月計14回)
- ・認定NPO法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。
- ・活動に賛同し、継続して以下の団体の団体会員になりました。  
認定NPO法人WE21 ジャパン、NPO法人JIMNET、いわき放射能測定室たらちね、認定NPO法人子どもセンターてんぽ、NPO法人ピース・デポ、社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会、港北区災害ボランティア連絡会
- ・認定NPO法人として積極的に寄付金を募ることを掲げ、5個人と3団体から203,000円の寄付をいただきました。

### 2) 広報

#### (1) 会報

会報を7月と12月に発行、会員以外にも広く両店で配布しました。生活クラブ菊名・港北commons組合員にカタログ組み込み配布を、またチョコ募金協力個人・団体にも配布しました。

また、運営委員会の様子を伝える紙面を7月、3月に作成して会員に発信・郵送しました。

#### (2) 活動だより

会員に向けて活動だよりNo.8を3月に発行し、情報の共有を行いました。総会のお知らせ、ご寄付の御礼、シリア地震緊急募金についていち早くお知らせしました。

#### (3) ホームページの運営

コロナ禍における事業運営、ショップ情報やイベントの告知を、来店時の注意などとともに掲載しました。

#### (4) SNS・ブログの運営

フェイスブック、インスタグラム、ショップブログを活用し、多様なユーザーに情報発信しました。Googleマップの閲覧回数も大幅に増加しています。

### 3) WE21 ジャパングループおよび地域との連携

- ・WE21 ジャパングループのメンバーとして連携し活動しました。  
他地域NPOと共催し、オンライン報告会や講座を開きました。
- ・地域イベントの多くはコロナ禍で中止になりましたが、「菊名ご近所文化祭」には参加しました。
- ・地域団体にチョコ募金を呼びかけ、4団体の協力を得ることができました。  
(こどもの本の店ともだち、港北つるみ福祉ユニット、(社福)かれん、なんでも舎ケアサービス)

### 4) その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時短営業・人数制限などの対策を行いました。
- ・平和な社会づくりについて考えました。ウクライナ緊急支援募金、トルコシリア緊急支援募金を行いました。
- ・危機管理と防災の取り組みとして、WEショップスタッフ登録者全員を、区社協のボランティア活動保険に加入登録し事故や災害に備えました。